

子どもの構音の発達について

構音とは、いわゆる「発音」のことです。
一般的には6歳前後にかけて日本語のすべての音が完成していきます。

構音（発音）の発達のめやす

～4歳	マ行・バ行・パ行・ア行・ナ行・タ行・ダ行・カ行・ガ行
～5歳	ヤ行・ワ行・ハ行
～6歳代	サ行・ザ行・ラ行・ツ

「マンマ」「ブーブー」など唇を閉じて作るマ行やバ行音からはじまり、サ行・ザ行・ツなど舌の細かい動きが必要な音は、正しい発音ができるようになるまでに時間がかかります。
正しく発音できるようになる音の順番や時期は個人差があります。



発音の発達の過程では、子どもは舌や唇の動かし方が未熟なため音を誤ることがあります。成長していく中でいつのまにか自然に正しい音を身につけていきます。

タカナ(さかな)だ!

チリン(きりん)だね。



カイコ(たいこ)
ドンドン!

しかし、中には正しい発音が完成するはずの時期になっても未熟な発音が残ってしまう子どももいます。
その際は、言語聴覚士のいる施設やことばの教室で発音の練習を行うことがあります。

お子さんが言い誤りをしている時、どのように答えていますか？



- ・ 誤った音を指摘する
- ・ 正しい音を何回も言わせようとする
- ・ 誤った音をマネする
…といったことをしたくなりますよね

- ・ いつも正しい音で話しかける
- ・ 言い直しはさせない
- ・ 自由楽しく会話する
…このように関わってあげてください



いつごろから発音の練習を受けた方がいいですか？

練習の必要性や開始時期は、下記を総合的にみて決めていきます。

- ✓ 発音を獲得する時期になっても正しく言えない
- ✓ 言語発達が4歳程度以上
- ✓ 発音が原因でいじめなどの二次的障害が起こっている
- ✓ 相手の指示に応じて課題に取り組む力が育っている



Messages

発音について心配や困りごとがある時には、舌の動かし方などの練習が必要な場合があります。その時には、正しい発音を習得し、日常のコミュニケーションの中で使えるように一緒に練習していきましょう。

お子さんが自信をもって楽しくお話ができるようにご家庭で見守っていただくことが大切です。

倉敷成人病センター
診療支援部 リハビリテーション科